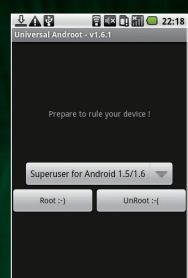
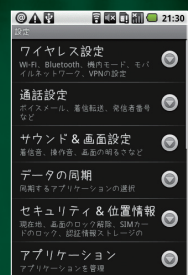
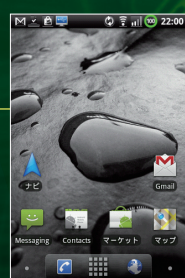
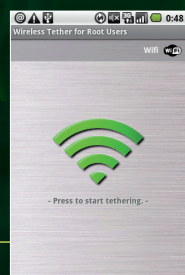
スマートフォンを使い尽くす激裏テクニック

p62 root取得

Androidハックの第一歩。まずはここから始めよう!「root」を取得することによって、Androidの奥の奥までタッチできるようになるのだ!

p66 カスタムROM

パソコンのOSを入れ替えるように、改造されたカスタムROMを利用することで全体をガラリとチェンジできる。

p64 フォント変更

インタフェースの根幹にかかわるフォントの変更は、rootを取得してはじめて行なえるようになる。フォントの変更で他人のAndroidスマートフォンと差をつけよう!

p70 root用アプリ

スクリーンショットの撮影といった、Androidの基本機能にしてほしい便利なアプリから、テザリングをはじめとする裏技系まで「root専用」のアプリをチェック。

Android ハック利用上の注意

最悪の場合、端末が壊れて起動できなくなってしまう場合があります(文鎮化・レンガ化)。必ず自己責任で行なってください。また、今回紹介しているテクニックは、基本的に「HT-03A」で検証しています。他の端末では適用できない場合がございますのでご注意ください。

輸入スマートフォンを使うのは違法?

「CEマーク」があれば、国内のSIMカードを入れて回線を利用できる。しかし「技適マーク」がないとWi-Fiは利用できないとされている。とはいえ実際は黙認状態?

技適マーク　CEマーク

Android Android Super Junkies スーパージャンキーズ

役に立たない

Android選択術

ここで、root取得を軸にしたAndroidの選び方を解説しよう。調べれば調べるほどSIMフリーの国際版を輸入した方がいいような気がしてくるのは内緒だ。

小型ノートPCのような操作性　IS01 LYNX by SHARP

キャリアはauとdocomoだが、ほぼ同じスペックをもったシャープ製端末。8月に行なわれたアップデートでrootの取得は現状では不可能になっている。

初の「全部入り」スマートフォン　IS03 by SHARP

おサイフケータイやワンセグなど、日本の携帯電話では一般的な機能を追加したモデル。rootの取得は不可能と見られている。

iPhone4対抗機 from 韓国　GALAXY S by SAMSUNG

海外では発売済みの人気モデルで、ハック方法もある程度確立されている。国内版はdocomoにより対策されている可能性も考えられるが……。

ガラパゴスの庭

IS01 LYNX　IS03

rootが取られることを前提として作られており、穴があったら即座に塞がれる。また、rootを取得されると機能しなくなるしくみのアプリを導入するなど、かなりセキュリティに気を使っている。

越えられないrootの壁

海外大手メーカー

Xperia　GALAXY S

これからも日本に続々参入してくるであろう海外メーカーのスマートフォンは、世界中にユーザーがいるため、root取得手順が確立されていることが多い。とはいえ国内版が同じになるかは不明。

俺たちのHTC

Desire　HT-03A

Googleとの協力のもとAndroid標準機である「ADP」シリーズを作っていることもあり、HTC製の端末はハッカーの人気を集めている。そしてはとんどrootが取られてしまう。

ソニエリ開発の人気機種　Xperia by SonyEricsson

おそらく日本でもっともユーザーの多いAndroidスマートフォン。rootを取得している人も多い。2.1へのアップデートはいつになるのだろうか……。

Android2.2へアップデート可能　HTC Desire by HTC

Androidの三代目標準機である「NexusOne」の兄弟モデル。一時は入手が困難になるほど人気だった。root取得の手順は意外と複雑らしい。

日本初のAndroid端末　HT-03A by HTC

昨年docomoから発売された日本初のAndroid端末。カスタマイズしているユーザーが多く、Android2.2のカスタムROMを利用することも可能。

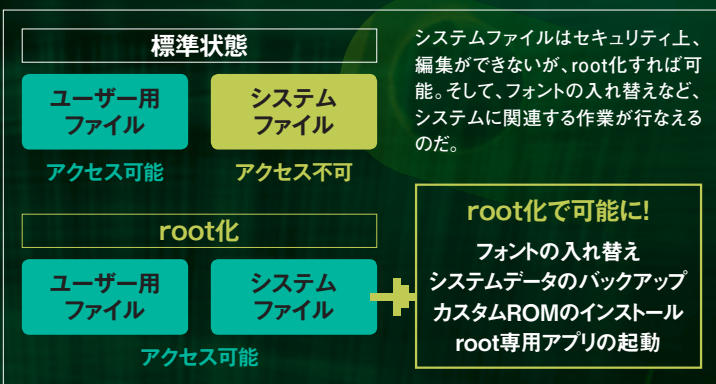
Desire HDにも注目

Softbankからの発売が決定したDesireの後継機。金属のボディを採用し、全体的にハードウエアのスペックとボリュームがアップしている。

Androidのroot権限を奪取する

Androidのシステム領域までアクセス可能に

Androidは自由度の高いOSだが、セキュリティ面の保護のため、標準ではroot権限は用意されていない。しかし、専用のツールを使うことで、root権限を持てるようにハックすることが可能で、rootになれることを「root化」や「rooted」と呼ばれている。root化すれば、システム領域まで自由にアクセスすることができ、フォントの入れ替えやシステム領域にアクセスするアプリのインストールが可能になるのだ。

システムファイルはセキュリティ上、編集ができないが、root化すれば可能。そして、フォントの入れ替えなど、システムに関連する作業が行なえるのだ。

Universal Androotでワンタッチroot化

root化はもちろんrootから戻すときもワンタッチ

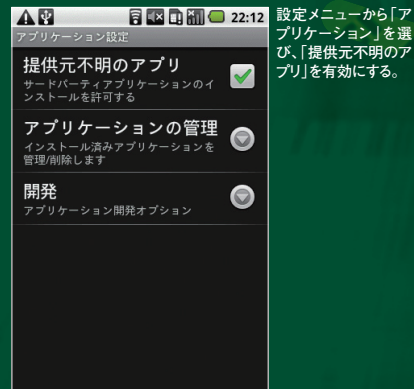
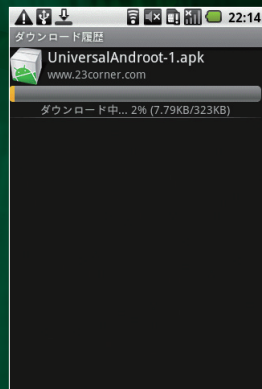
Androidマシンのroot化の手法はいくつかあり、かつてはOSのダウングレードなど、非常に手間がかかる作業が必要だったが、現在は「Universal Androot」というアプリを利用することで、簡単に実行することができる。

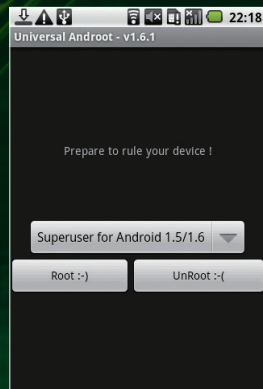
root化の手順は、サードパーティ製アプリを有効にした状態で実行し、ボタンを押すだけ。root化状態から標準の状態に戻す場合も、ワンボタンでOKだ。

[QRコード]

Universal Androot
URL ■ http://bit.ly/aa4jxJ

1 サードパーティ製アプリを有効にする

設定メニューから「アプリケーション」を選び、「提供元不明のアプリ」を有効にする。

2 Universal Androotをダウンロード

QRコードスキャナーなどで「Universal Androot」のURLにアクセス。ダウンロードしてインストールする。

3 root化実行

Android OSのバージョンを選択したあと、「root:-)」ボタンをタップすれば、root化作業がはじまるので、しばらく待とう。

対応機種はXperia、HT-03AなどでIS01やLynxは未対応

Universal Androotを使えば、XperiaやHT-03Aなど現行で発売されている機種のほとんどでroot化を行なうことができる。ただし、ドコモの「Lynx」とauの「IS01」については対応しない。両機種は別の手法でroot化は可能だが、root化後の制限が厳しく、root化のメリットはあまりないのが現状だ。

XperiaやHT-03Aは「Universal Androot」でroot化が可能。

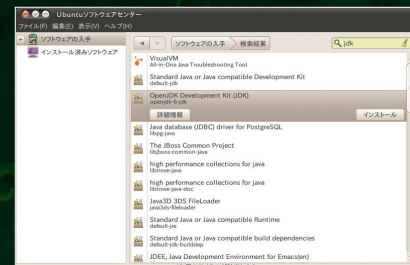
IS01やLynxでもroot化は可能だが、最新のケータイアップデートを適用していると不可能なほか、カスタムROMなどは導入できない。

デベロッパーキットをインストールしよう

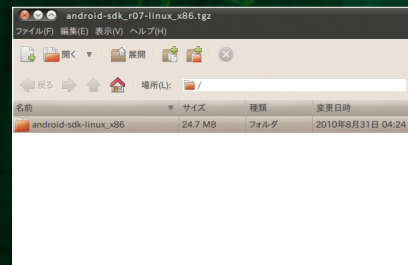
カスタムROMの導入やフォントの入れ替えなど作業で必要

root化の最大のメリットはカスタムROMをインストールすることだが、その準備としてデベロッパーキットのインストールが必要となる。デベロッパーキットは、Windows用とLinux用が用意されているので、Linux版を任意のフォルダに保存しておき、「tools」フォルダまでのパスを設定しておこう。また、Android機をLinuxで認識させるため、機種ごとに用意されているUSBベンダーIDの設定も行なっておこう。

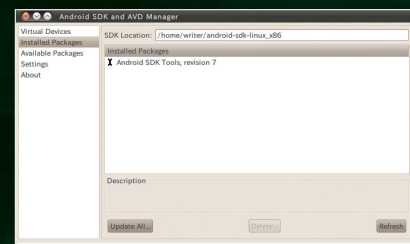
OpenJDK Development Kit
作者名 ■ Sun Microsystems
インストール ■ Ubuntuソフトウエアセンター
URL ■ http://openjdk.java.net/

Android SDK
作者名 ■ Open Handset Alliance
インストール ■ ダウンロード
URL ■ http://developer.android.com/intl/ja/sdk/

1 OpenJDKのインストール

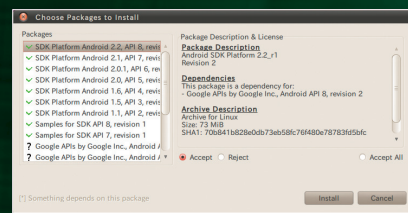
「Ubuntuソフトウエアセンター」から「JDK」で検索し、「OpenJDK Development Kit」をインストールする。

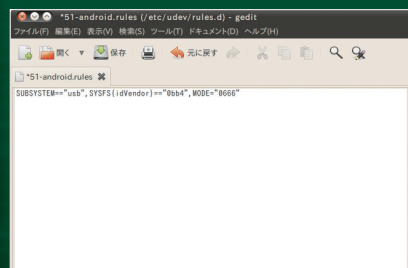
2 Android SDKのインストール

公式サイトからLinux用のAndroid SDKをダウンロードし、ホームフォルダなどにコピーしておこう。

3 パスの変更

ホームフォルダにある「.bashrc」をエディタで開き（隠しファイルなので注意）、一番下に「PATH="$PATH":/home/（ユーザー名）/android--sdk-linux_x86/tools」と書いてパスを追加する。保存後、一度ログアウトして、再度ログインしよう。

4 パッケージのアップデート

端末で「android」とコマンドを入れるとSDKが実行されるので「Installed Packages」を選び、「Update All...」を実行する。

5 アップデートのインスール

アップデートするパッケージの一覧が表示されるので「Install」ボタンを押してインストールする。

6 USB接続の設定

端末で「sudo gedit /etc/udev/51-android.rules」と入力してエディタを開き、「SUBSYSTEM=="usb",SYFS{idVendor}=="0bb4",MODE="0666"」と入力して保存する。「0bb4」の部分は、右のUSBベンダーIDを参考に、使用する機種にあわせよう。終了後、「chmod a+r /etc/udev/rules.d/51-android.rules」で権限を変えておく。

USBベンダーID	
Acer	0502
Dell	413c
HTC	0bb4
Motorola	22b8
Samsung	04e8
Sharp	04dd
SonyEricsson	0fce

デベロッパーキットでスクリーンキャプチャが撮れる

デベロッパーキットをインストールしておけば、Android機とUSBケーブルで接続し、Androidの画面をLinux上で表示し、スクリーンショット機能で撮影することができる。ブログでAndroidアプリを紹介したい人などにおすすめだ。なお、スクリーンショットはroot化していなくても問題ない。手順は「tools」フォルダ内にある「ddms」を実行すればよい。実行できないときは、「tools」までパスが通っているか、実行権限があるかを確認しよう。

「tools」フォルダにある「ddms」を実行可能にして、実行するとデバッグモニターが起動する。

メニューから「Device」→「Screen Capture」を選ぶと、接続中のAndroid機のキャプチャが撮れる。

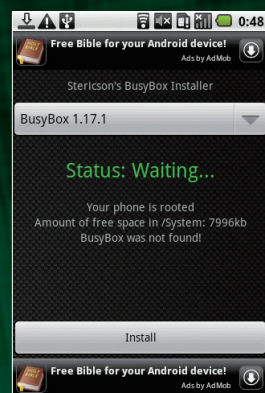
コマンドを使えるように BusyBoxをインストール

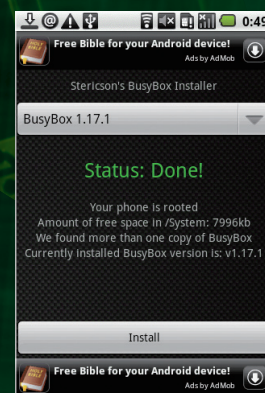
cpやmvなど基本的な コマンドが利用可能に

root化後にフォントをインストールしたり、カスタムROMを導入するときは、基本的なコマンドの入力が必要になるが、初期状態ではコマンド自体がインストールされておらず実行することができない。そこで、「BusyBox」を導入し、「cp」や「mv」などを実行できるようにしておこう。

［ QRコード ］

BusyBox
作者名 ■ Stephen (Stericson)
カテゴリ ■ ツール
価格 ■ 無料

1 BusyBoxの起動

アプリメニューからBusyBoxを起動し、「Install」を選択する。

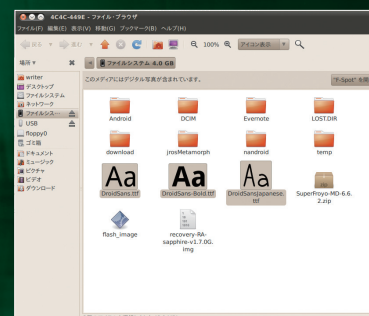
2 インストール完了

ルートアクセスの許可メッセージが出たあとインストールが完了。

システムフォントを 入れ替えてみよう

root化された環境であれば、フォントファイルを入れ替えるだけで、システムフォントを変更できる。標準のフォントも非常に見やすいが、個性を出したい人におすすめだ。なお、フォントは拡張子「.ttf」のものを用意しよう。

1 フォントを用意する

拡張子「.ttf」のフォントファイルを日本語フォントなら「DroidSansJapanese.ttf」、標準フォントなら「DroidSans.ttf」、太字なら「DroidSans-Bold.ttf」にする。

2 SDカードにコピー

名前を変えたフォントファイルをSDカードの直下にコピーする。日本語フォントだけでもOKだ。

3 コマンドを実行

```
$ adb shell
$ su
# mount -o remount,rw /dev/
block/mtdblock3 /system
# cp /sdcard/DroidSans.ttf
/system/fonts
# cp /sdcard/DroidSans-Bold.
ttf /system/fonts
# cp /sdcard/
DroidSansJapanese.ttf /
system/fonts
# reboot
```

4 フォントの変更完了

Android本体を再起動後、システムフォントが変更される。

おすすめフォント

新規企画について

【媒体名】
OpenOffice.org3完全ガイド
（仮）
【媒体概要】
MS Officeと高い互換性を持つ
オープンソースのオフィスス
イーツ「OpenOffice.org」。
バージョンが3になり、
Office2007/2008に対応するなど
より互換性と使いやすさが強化

アームド・バナナ
URL ■ http://calligra-tei.oops.jp/

かなりクセのある手書き文字。同じ作者の「アームド・レモン」もチェックしよう。

新規企画について

【媒体名】
OpenOffice.org3完全ガイド
（仮）
【媒体概要】
MS Officeと高い互換性を持つ
オープンソースのオフィススイーツ「OpenOffice.org」。
バージョンが3になり、
Office2007/2008に対応するなど
より互換性と使いやすさが強化

あずきフォント
URL ■ http://azukifont.com/

見やすい女性風の手描きフォント。少し太文字の「うずらフォント」もおすすめ。

システムとアプリを まとめてバックアップ!

「Titanium Backup」で あらゆるデータをバックアップ

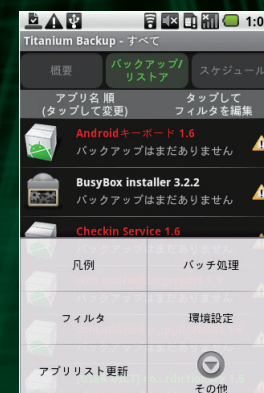
root化して、いろいろと作業をする前にバックアップをしておこう。「Titanium Backup」はroot化専用アプリで、システムデータのほか、インストール済みのアプリもバックアップできる優秀なソフト。万が一のために必ず実行しておこう。

［ QRコード ］

Titanium Backup
作者名 ■ Joel Bourquard
カテゴリ ■ ツール
価格 ■ 無料

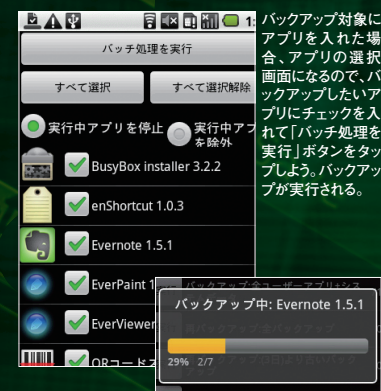
1 バックアップの実行

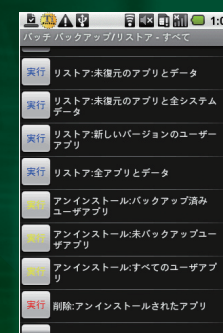
メイン画面から「バックアップ/リストア」を選択する。

2 バッチ処理を選択

メニューボタンでメニューを表示し「バッチ処理」を選ぶ。

3 バックアップ項目を選択

4 アプリの選択

バックアップ方法のリストが表示されるので、バックアップ方法を選ぶ。おすすめは「バックアップ:全ユーザーアプリ」。

バックアップ対象にアプリを入れた場合、アプリの選択画面になるので、バックアップしたいアプリにチェックを入れて「バッチ処理を実行」ボタンをタップしよう。バックアップが実行される。

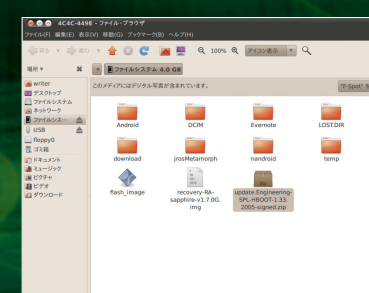
復元方法

バックアップデータからリストアしたい場合は、「バックアップ/リストア」メニューの下の表にあるリストアの項目を選ぶだけでOKだ。

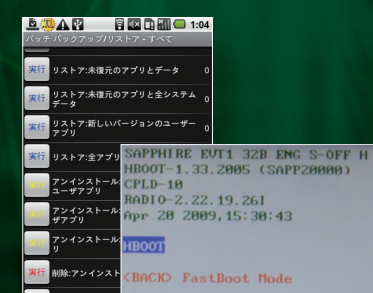
万が一のためEngineering SPLを導入しておく

スプラッシュ画面を 変更したい場合も必要

Androidは起動時にSPLが実行されるが、標準のSPLは書き換え制限があるなど、システムが壊れたときに問題が出るケースがある。そこで書き換え制限のない、「Engineering SPL」を導入しよう。

Engineering SPL 1.33.2005
作者名 ■ Amon_RA
ファイル名 ■ update.Engineering-SPL-HBOOT-1.33.2005-signed.zip
URL ■ http://forum.xda-developers.com/showthread.php?t=529019

1 アップデータのコピー

「update.Engineering-SPL-HBOOT-1.33.2005-signed.zip」を解凍せず、SDカードの直下にコピー。Androidの電源を一度切り、HOMEボタンと電源ボタンを長押しして、リカバリーモードで起動する。

2 アップデータを選択

「Flash zip from sdcard」からアップデータを選び、最後に再びメッセージが表示されたら、メニューから「Reboot system now」を選んで再起動を実行する。FASTBOOTのバージョンが「1.33.2005」になっていればOKだ。

改造版ROMデータ「カスタムROM」をインストールしよう

公式ROMをベースに高速化や機能強化されている

root化最大の特徴はOSを丸ごと入れ替えてしまうカスタムROMを導入できること。カスタムROMは、公式のROMをベースに最適化や高速化、アプリを追加したもので、丸ごとROMを入れ替えて使用する。なお、カスタムROMをインストールすると、今までのデータはすべて消えてしまうので、必ずバックアップをしておこう。65ページで紹介している「Titanium Backup」を使えばアプリごとバックアップができる。

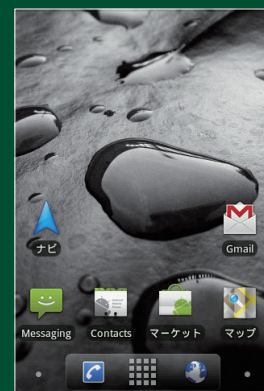
リスクも大きいので注意

カスタムROMは、Android機のROMデータを丸ごと入れ替える。そのため、何らかの理由でインストールに失敗した場合、電源を入れても何も起動しなくなるケースも考えられる(いわゆる「レンガ化」)。公式のサポートも受けられなくなるので、必ず自己責任で実行しよう。

インストールしたいカスタムROMを選ぶ

カスタムOSは、数多くの作者の手によって膨大な種類のものがリリースされている。最新のAndroid 2.2をベースにしたものから、高速化を重視し、設定をチューニングすることでサクサク動くものまで選択肢は多い。代表的なカスタムROMは、2.2をベースに最新機能を持つ「SuperFroyo」、同じく2.2ベースで日本語にも対応したバランスのよい「ThxBiff」、高速化を重視しつつ、日本語完全対応の「HyperJ」などがある。カスタムROMの入れ替えは比較的簡単なので、いろいろ試してみるとよい。

SuperFroyo

URL ■ http://www.htcmania.com/showthread.php?t=140354

Android2.2をベースに、意欲的に新機能を取り込んでいる最新のカスタムROM。日本語には対応していないが、日本語ロケールである程度の日本語化はできる。

ThxBiff

URL ■ http://www.xametal.net/android/signed-ThxBiff-v1.3.zip

「CM6.0.0」「Biffmod」という著名なカスタムROMをベースにしている日本版カスタムROM。Androidバージョン2.2なのが大きな特徴。

HyperJ

URL ■ hhttps://www.sugarsync.com/pf/D789299_081795_625422

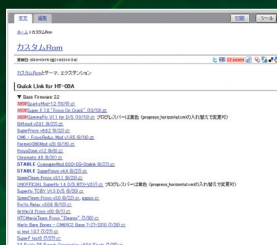
動作速度で実績の高い「SuperD」をベースにして、日本語化や独自機能を追加した完成度の高いカスタムROM。バージョンはAndroid1.6。

カスタムROMをもっと探したい場合は

今回紹介した以外でも優秀なカスタムROMは数多くある。探したい場合は、Wiki形式でカスタムROMがまとめられている「Android Custom Cookbook」を活用するとよいだろう。メジャーなカスタムROMを除いて解説などはないが、ダウンロードページへ直接アクセスすることが可能だ。

Android Custom Cookbook

URL ■ http://acc.komugi.net/

Wiki形式でAndroidのハック情報がまとめられている日本最大級の情報サイト。

国内外問わず、カスタムROMへのリンク集も充実している。

リカバリイメージを変更

カスタムROMをインストールするために必須

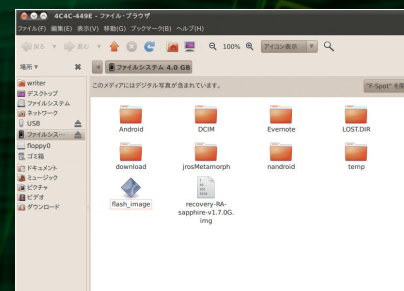
カスタムROMをインストールする前に、リカバリーモードを変更する必要がある。そのためには、root化したAndroid機に「RA-sapphire」をFlash内に書き込む必要がある。まずは、Flashへの書き込みができる「flash_image」を導入し、それから、リカバリイメージを差し替えよう。なお、作業はUSBケーブルとパソコンを接続しておき、すべてデベロッパーキット上で行なうので、あらかじめインストールと初期設定をしておく必要がある。必要ファイルさえコピーしておけば、右で紹介しているコマンドを入力するだけで、イメージの導入が可能だ。

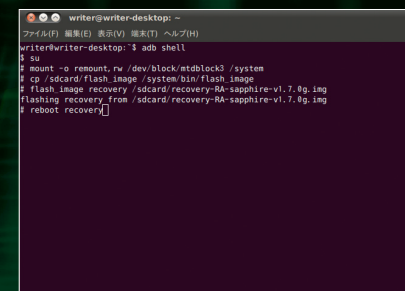
OpenJDK Development Kit

作者名 ■ 不明
ファイル名 ■ flash_image
URL ■ http://benocharm.lensworks.org/flash_image

RA-sapphire

作者名 ■ Amon_RA
ファイル名 ■ recovery-RA-sapphire-v1.7.0G.img
URL ■ http://forum.xda-developers.com/showthread.php?t=530492

1 必要ファイルをコピー

「flash_image」と「recovery-RA-sapphire-v1.7.0G.img」をSDカードの直下にコピーしておく。

2 コマンドの実行

端末を起動して、下のコマンドを順番に入力しよう。

コマンド

```
$ adb shell
$ su
# mount -o remount,rw /dev/block/mtdblock3 /system
# cp /sdcard/flash_image /system/bin/flash_image
# chmod 755 /system/bin/flash_image
# flash_image recovery /sdcard/recovery-RA-sapphire-v1.7.0G.img
# reboot recovery
```

「abd shell」が実行できない場合は「Android SDK」が正しくインストールされていない。63ページを参照して再度インストールしてみよう。また「cp」コマンドが実行できないときは、64ページを参考に「BusyBox」をインストールしよう。

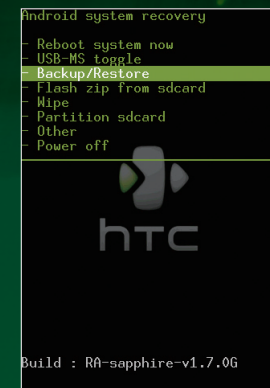
3 リカバリモードの起動

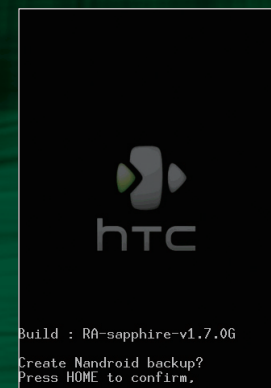
「RA-sapphire-v1.7.0G」でリカバリモードが起動すれば成功だ。

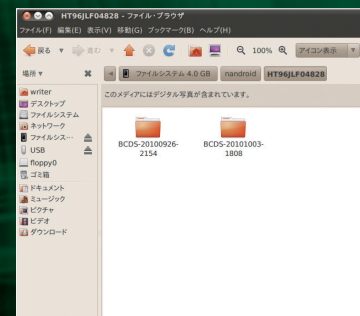
公式ROMをバックアップしておこう

リカバリーモード導入後は、公式ROMのバックアップを取っておこう。バックアップを忘れてしまうと、公式ROMに戻せなくなるので、必ず実行しておくことが必要だ。

バックアップの方法は次の通り。はじめに電源ボタンと「HOME」ボタンを同時に長押ししてAndroidを起動し、リカバリーモードにする。続いて、「Backup/Restore」メニューーバックアップを実行すれば、公式ROMのデータがSDカード内にコピーされる。あとは、SDカードのデータをパソコンなど外部にコピーしておけばOKだ。

1 バックアップメニューを選択

HOMEボタンと電源ボタンを同時に長押ししてリカバリモードを起動。メニューで「Backup/Restore」を選択する。

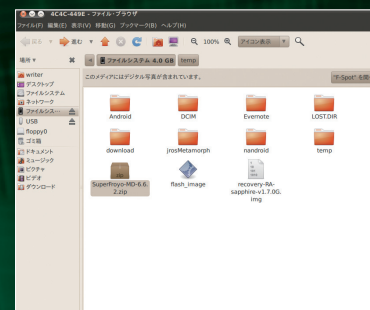
2 フラッシュのバックアップを選ぶ

リストで「Nand backup」を選択する。バックアップを実行するかどうかメッセージが表示されたら「HOME」ボタンを押して実行しよう。画面に「Backup complete!」と表示されれば作業は完了だ。

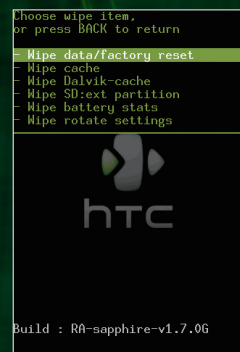
3 SDカードからコピー

バックアップファイルはSDカードの「nandroid」フォルダ内に作成されるので、パソコンにコピーしておこう。フォルダはバックアップした日付ごとに作成される。

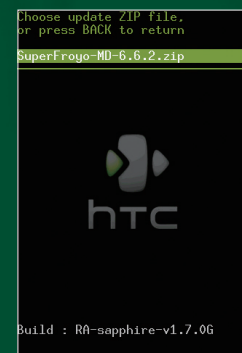
リカバリモードから イメージをインストール

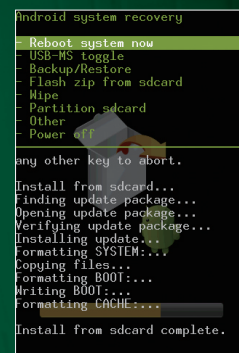
ROMイメージをコピーして リカバリモードから実行

ここまでの準備が整っていれば、カスタムROMのインストールは簡単だ。まずは、SDカードの直下にZIPファイルのままカスタムROMのイメージファイルをコピーしておき、リカバリーモードを起動する。続いて、メニューから工場出荷状態に戻し、それからイメージファイルを選択してインストールする流れになる。別のカスタムROMに変えたいときもこの作業からはじめればよい。

1 ROMイメージをコピー

カスタムROMのイメージファイルをZIPファイルのまま解凍せずにSDカードの直下にコピーしておこう。

2 工場出荷状態に戻す

「HOME」ボタンと電源ボタンを長押しして起動し、メニュ一から「Wipe」を選んで、メニューから「Wipe data/factory reset」を選択して、工場出荷状態に戻す。

3 Flashメニューから ROM選択

メニューから「Flash zip from sdcard」を選択し、SDカードにコピーしたイメージファイルが表示されるので、インストールしたいものを選択する。

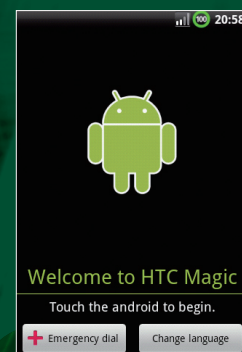
4 インストール完了

ファイルの解凍が完了すると「Install from sdcard complete.」と表示される。

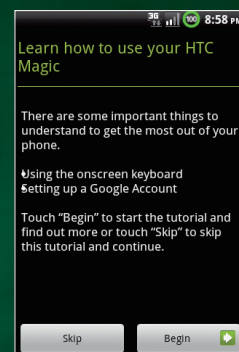
5 カスタムROMの起動

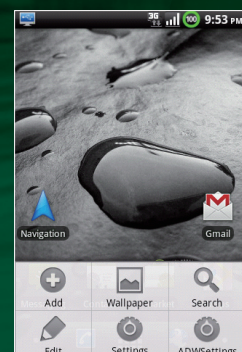
「Reboot system now」を選べば、カスタムROMとして起動する。ただし、10～20分程度はかかるので、じっくり待とう。

初期設定とネットワークの 設定を最初に実行

インストール後は初期設定とネットワークの設定を行なおう。最初に表示される初期設定はスキップし、ホーム画面が表示後の設定メニューでネットワーク関連の設定をすればよい。ただし、カスタムROMの種類によっては初期画面でGoogleアカウントの登録が必要な場合がある。こういったケースのときは最初に3Gネットワークの設定して、通信環境を整える必要があるぞ。

1 ロボットをタップ

Androidのロボットをタップするとインストールがはじまる。言語が英語以外の時は、右下のボタンを押して「English」を選び英語にする。

2 初期設定はスキップ

Googleアカウントの初期設定は、あとからでも可能なので「Skip」で飛ばしてしまおう。

3 設定メニューを開く

メニューボタンを押して、「Settings」を選択しよう。はじめに「Wireless & network」を選び、「Wi-Fi」と「Mobile network」の設定をしておく。

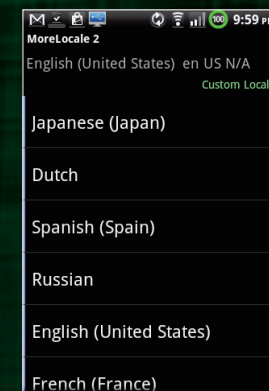
日本語ロケールで 日本語化を行おう

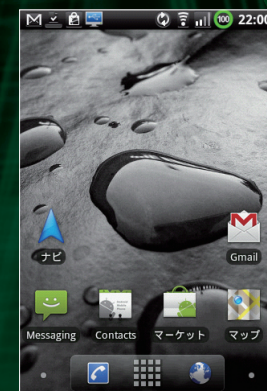
設定メニューなど 一部を除いて日本語化できる

導入するカスタムROMによっては標準で日本語に対応していないケースがある。その場合は、「MoreLocale2」というアプリをインストールすれば、各種メニューを日本語化することが可能だ。ただし、完全に日本語化できるわけではないので注意しよう。

［ QRコード ］

MoreLocale2
作者名 ■ C-LIS Crazy Lab.
カテゴリ ■ ツール
価格 ■ 無料

1 MoreLocale2の起動

MoreLocale2をインストール後に起動し、言語のリストから「Japanese (Japan)」を選択する。

2 日本語化完了

各種メニューが日本語化される。ただし、日本語化されない部分も多い。

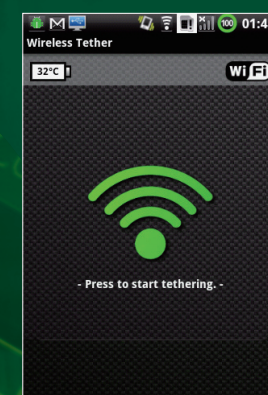
Android2.2を体感しよう

HT-03AやXperiaでも 十分に動作する

Android2.2ベースのカスタムROMをインストールすれば、2010年10月現在では日本で発売されていない、2.2の優れた能力や最新機能をいちはやく体感することができるのだ。2.2のポイントは、Flashに完全対応したこと、テザリングなどのアプリが標準インストールしたことなどが挙げられる。1.6に比べると高機能な分、処理速度は遅いが、実用レベルで動かすことが可能だ。

1 Androidバージョンが2.2

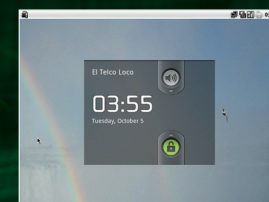
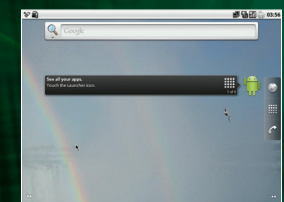
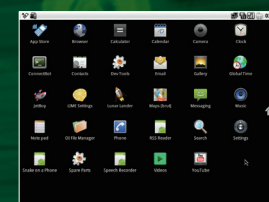
端末情報の「Androidバージョン」が「2.2」になっていることを確認する。

2 2.2のアプリを使う

テザリングなどのバージョン2.2に搭載されているアプリを使うことができる。

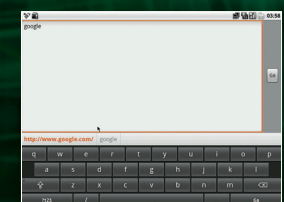
パソコンにAndroidをインストールしよう!

再現度は高いが 動作は重く実用には厳しい

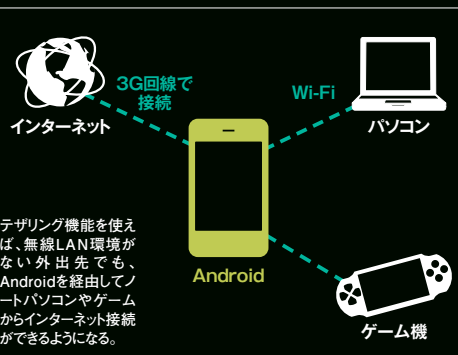
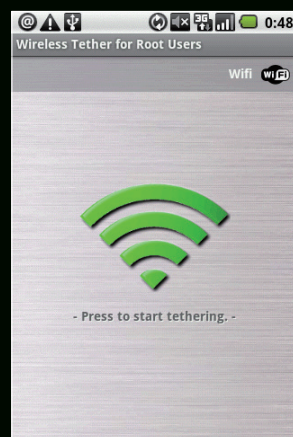
Androidはスマートフォン向けのOSだが、パソコンにもインストールできる。ただし、試験的なバージョンで動作速度が極端に遅く実用向きではない。それでも再現度自体は高いので、興味のある人は試してみよう。

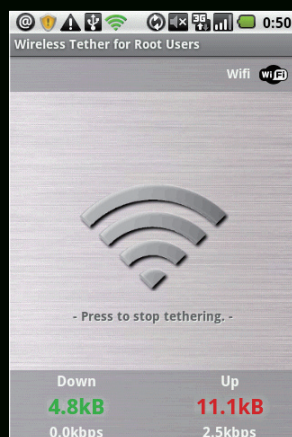
Android-x86 - Porting Android to x86
作者名 ■ Chih-Wei Huang
ファイル名 ■ froyo-vm-20100812.iso
URL ■ http://www.android-x86.org/

起動画面。Android機同様、ロックをスライドさせると起動する。

メイン画面。横向きだが、インタフェースはAndroidと同じ形だ。

アプリメニュー。はじめから多くのアプリが揃っている。Androidマーケットは利用できないようだ。

文字入力も日本語入力には未対応だ。

Android機がモバイルルーターになる!

Wireless Tether for Root Users

作者名■harald.mue　価格■無料

Androidをモバイルルータがわりにしてしまうテザリングアプリ。ノートパソコンなどからWi-Fi経由でAndroidからインターネットへアクセスできるのだ。ただし、パケット代には十分注意しよう。

テザリング手順

「Wireless Tether」を起動し、画面をタッチする。

Wi-Fi対応機器からネットワークにアクセスする。SSIDは「G1Tether」となっている。

アクセスが始まり、通信速度が表示される。

実用度満点!

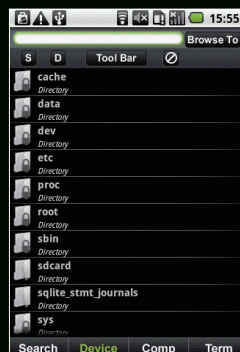
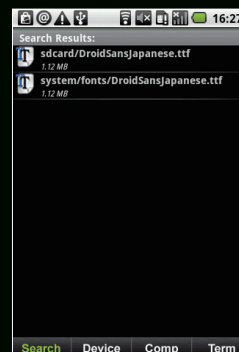
root化必須アプリ紹介

Androidマーケットにはroot化を前提とした高機能アプリが多数用意されている。そこで、テザリングやスクリーンショットツールなど、おすすめのroot化必須アプリを紹介しよう。

システムファイルへアクセスできるファイラー

SU File Manager & Terminal

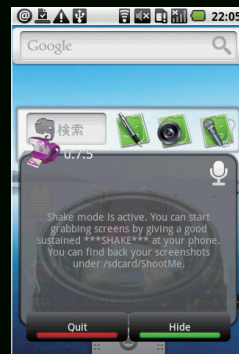
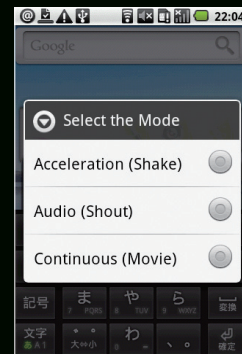
作者名■Protocol - X　価格■無料

システムファイルの編集ができるファイラー。内蔵のエディタでテキストファイルを開けるほか、パーミッションの変更もできる。また、ターミナルも用意されており、コマンドの実行も可能な万能ツールだ。

Windowsのエクスプローラ感覚でAndroid内のファイルへアクセスできる。

ファイルやフォルダをキーワードで検索できる。

単体で画面写真を撮影

ShootMe

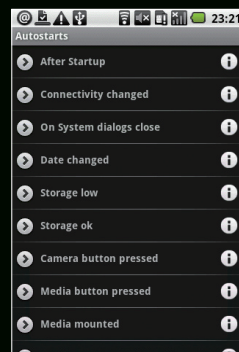
作者名■Johan Cloetens　価格■無料

パソコンを使わず、ケータイ単体でスクリーンキャプチャが撮れるツール。ブログなどでAndroidの画面を紹介している人向けで、外出先で撮影したいときに便利。撮影方法も3パターン用意されている。

画面撮影をしたいポイントで起動し、「Hide」を押してから撮影したい画面でシェイクしよう。

画面撮影の方法は3パターン。画面を振る「シェイク」、声で撮影する「シャウト」、連続撮影する「ムービー」。

スタートアップアプリを変更

Autostarts

作者名■Michael Elsdorfer　価格■0.69ユーロ

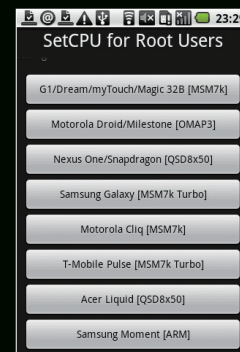
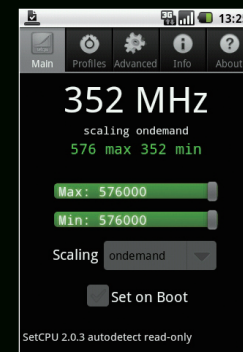
Androidの起動時に同時に実行されるスタートアップアプリをカスタマイズできるアプリ。不要なアプリを停止させれば、その分メモリやCPUに余裕ができ、Androidがキビキビ動くようになるのだ。

設定項目から「After Startup」を選ぶと、スタートアップの選択画面になる。

スタートアップしたい項目や外したい項目を選ぶことができる。

CPUをオーバークロック!

SetCPU

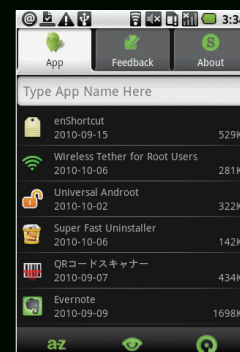
作者名■MichaelHuang　価格■1.99ドル

CPUのオーバークロックをするアプリ。正確にはAndroid各機種本来の最高速度に設定するアプリで、HT-03Aなど、はじめからCPU周波数を抑えている機種のみ利用できる。少しでも高速動作させたい人向けだ。

メニューからCPUを選択し、HT-03Aならば「G1/Dream/myTouch/Magic 32B」を選ぼう。対応しない機種もある。

HT-03Aでは、クロック周波数を最大528MHzまで上げることができる。

超高速でアプリをアンインストール!

Super Fast Uninstaller

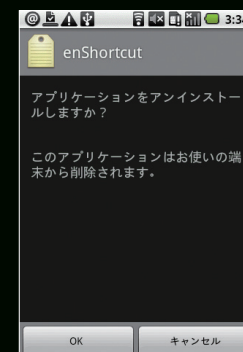
作者名■Superdroid.net　価格■無料

複数のアプリの一括削除に対応するアンインストール専用のアプリ。色々試しているうちに、アプリを入れすぎた場合など、標準のアンインストール機能よりもサクサク削除できるので便利。

起動するとインストール済みアプリの一覧が表示される。

enShortcut

アプリケーションをアンインストールしますか？

このアプリケーションはお使いの端末から削除されます。

OK　キャンセル

アプリを選択すれば、すぐにアンインストール画面になりアプリを削除できる。